

科目名	器楽演奏Ⅰ			担当教員	古井 成三	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験	依頼演奏、リサイタル等演奏活動、音楽系部活動・課外活動外部指導者並びに外部講師(合奏トレーナーなど)					
実務経験を生かした授業内容	演奏活動、音楽系部活動・課外活動外部指導者の経験を活かし、各楽器ごとに異なる知識の総合的な活用法(指導法・メンテナンス等)についてレッスンする。					
到達目標及びテーマ	器楽演奏Ⅰでは、多種多様な楽器のなかで、木管楽器・金管楽器・打楽器の知識を、実際に楽器に触れ、体験することで初歩的な知識・活用法を得る土台とする。 それらの知識から、のちに(初心者・経験者共に)専門的な知識を(新たに・改めて)養い得ることによって、教育現場で活用する初歩とすることで、指導力、美しい音色で演奏する、そして子どもたちと音楽を共有し、共に学ぶ力を養う。					
授業の概要	履習学生を3グループに分け、それぞれのグループごとに、各5回ずつ、木管・金管・打楽器と学ぶ、オムニバス形式での講義となる。 木管楽器・金管楽器であれば、楽器の組み立てから、マウスピースでの音の出しかた、運指等の基礎知識、奏法を学ぶ。 打楽器は多岐にわたる楽器に技術が応用できるスネアドラムを中心に奏法・知識を学び、また使用頻度の高いその他の楽器も経験する。 試験に関しては、各楽器5回目に、教員より指示された内容で簡易的な試験を行う。 それに伴い、定期試験(16回目)は行わない。 【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	金管楽器(1回目：古井) ～金管楽器の音出しの初歩～その① 金管楽器全てに共通する各種マウスピースで音を出し、可能であれば、実際に楽器を付けて音を出してみる。 それらをもとに、5回目で行なう試験において演奏する楽器を選ぶ(4回目までに決定)。 基礎知識編として、トランペットを学ぶ。
第2回	金管楽器(2回目：古井) ～金管楽器の音出しの初歩～その② 1回目に引き続き、5回目で行う試験で演奏する楽器を選ぶための各楽器の試奏。 基礎知識編として、ホルン・トロンボーンを学ぶ。
第3回	金管楽器(3回目：古井) ～金管楽器の音出しの初歩～その③ 1回目、2回目に引き続き、5回目で行う試験で演奏する楽器を選ぶための各楽器の試奏。 基礎知識編として、(トロンボーン)・ユーフォニアム・チューバを学ぶ。
第4回	金管楽器(4回目：古井) ～金管楽器の音出しの初歩～その④ 1回目～3回目に引き続き、5回目で行う試験で演奏する楽器を決定する。 基礎知識編として、(ユーフォニアム・チューバ)を学ぶ。 更に可能なら、基礎知識編として、様々なジャンルの音楽からの金管楽器の活用を聴き、知識の拡充を図る。
第5回	金管楽器(5回目：古井) ～まとめ～ 各4回にわたって学んだ金管楽器の知識をもとに選んだ楽器で、基本奏法を軸に試験を行う。 その後、初歩的な合奏(アンサンブル)にも挑戦してみる。
第6回	木管楽器(1回目：桜井) 楽器の組み立て方、リードの取り付け方、アンプシュアの形、構え方等、音出しの準備と方法を学ぶ。
第7回	木管楽器(2回目：桜井) サクソフォーン奏者のためのABCより、No.1～29(基礎の中,低音域の安定)
第8回	木管楽器(3回目：桜井) サクソフォーン奏者のためのABCより、No.30～32(オクターブキイの操作) No.33～36(高音域への拡大)

第9回	木管楽器(4回目：桜井) サクソフォン奏者のためのABCより、No.36~37(タンギングのマスター)
第10回	木管楽器(5回目：桜井) サクソフォン奏者のためのABCより、 No.42.43.44(試験課題曲)
第11回	打楽器(1回目：稲垣) スネアドラムのづくり、基礎奏法 ティンパニのづくり、基礎奏法
第12回	打楽器(2回目：稲垣) スネアドラムの基礎奏法 ティンパニの応用奏法
第13回	打楽器(3回目：稲垣) スネアドラムの応用奏法 大太鼓、シンバルのづくり、基礎奏法
第14回	打楽器(4回目：稲垣) スネアドラムの応用奏法 鍵盤打楽器(マリンバ、シロフォン、ヴィブラフォン、グロッケン、チャイム)のづくり、基礎奏法
第15回	打楽器(5回目：稲垣) スネアドラムを用いた小テスト 鍵盤打楽器の応用奏法

事前学修		金管楽器:①～④各々の回で学ぶ楽器の初歩の知識(形状・名称など)は学んでおく。④試験で演奏する楽器を考えておく。⑤選択した楽器を練習する。 木管楽器:毎回のレッスン反復練習と次回のレッスン内容の予習。 打楽器:授業で使用する楽器の準備、できれば楽器とそれに使用するバチの組み合わせを調べておく。
事後学修		金管楽器:①～③次回までに学ぶ楽器の初歩の知識を学んでおく。③試験で演奏する楽器を考えておく。④選んだ楽器を練習する。⑤次回から始まる楽器の予習をしておく。 木管楽器:レッスン内容の確認と確実性を高めるトレーニングをする。 打楽器:座学的に説明した内容のまとめ、実習的に取り組んだ内容の反復練習。
フィードバックの方法	授業時間内において適時説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価		50%	実技:基本奏法における音色、表現等、まとめられて演奏できているか。
上記以外の試験・平常点評価		50%	取り組みに対する努力が見受けられたか、指摘された問題点を改善できたか。
定期試験		0%	行わない。
補足事項	全楽器共通 実際に楽器を使用するため、準備、片付け等、楽器の扱いに注意する。 金管楽器・打楽器の教材(資料)は、各授業内にて配布する。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
サクソフォン奏者のためのABC	ブラティー	ビヨドー出版社	9790043028567	なし
参考資料	特になし			

科目名	器楽演奏Ⅰ			担当教員	桜井 牧男	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験	依頼演奏、リサイタル等演奏活動、音楽系部活動・課外活動外部指導者並びに外部講師(合奏トレーナーなど)					
実務経験を生かした授業内容	演奏活動、音楽系部活動・課外活動外部指導者の経験を活かし、各楽器ごとに異なる知識の総合的な活用法(指導法・メンテナンス等)についてレッスンする。					
到達目標及びテーマ	器楽演奏Ⅰでは、多種多様な楽器のなかで、木管楽器・金管楽器・打楽器の知識を、実際に楽器に触れ、体験することで初歩的な知識・活用法を得る土台とする。 それらの知識から、のちに(初心者・経験者共に)専門的な知識を(新たに・改めて)養い得ることによって、教育現場で活用する初歩とすることで、指導力、美しい音色で演奏する、そして子どもたちと音楽を共有し、共に学ぶ力を養う。					
授業の概要	履習学生を3グループに分け、それぞれのグループごとに、各5回ずつ、木管・金管・打楽器と学ぶ、オムニバス形式での講義となる。 木管楽器・金管楽器であれば、楽器の組み立てから、マウスピースでの音の出しかた、運指等の基礎知識、奏法を学ぶ。 打楽器は多岐にわたる楽器に技術が応用できるスネアドラムを中心に奏法・知識を学び、また使用頻度の高いその他の楽器も経験する。 試験に関しては、各楽器5回目に、教員より指示された内容で簡易的な試験を行う。 それに伴い、定期試験(16回目)は行わない。 【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	金管楽器(1回目：古井) ～金管楽器の音出しの初歩～その① 金管楽器全てに共通する各種マウスピースで音を出し、可能であれば、実際に楽器を付けて音を出してみる。 それらをもとに、5回目で行なう試験において演奏する楽器を選ぶ(4回目までに決定)。 基礎知識編として、トランペットを学ぶ。
第2回	金管楽器(2回目：古井) ～金管楽器の音出しの初歩～その② 1回目に引き続き、5回目で行う試験で演奏する楽器を選ぶための各楽器の試奏。 基礎知識編として、ホルン・トロンボーンを学ぶ。
第3回	金管楽器(3回目：古井) ～金管楽器の音出しの初歩～その③ 1回目、2回目に引き続き、5回目で行う試験で演奏する楽器を選ぶための各楽器の試奏。 基礎知識編として、(トロンボーン)・ユーフォニアム・チューバを学ぶ。
第4回	金管楽器(4回目：古井) ～金管楽器の音出しの初歩～その④ 1回目～3回目に引き続き、5回目で行う試験で演奏する楽器を決定する。 基礎知識編として、(ユーフォニアム・チューバ)を学ぶ。 更に可能なら、基礎知識編として、様々なジャンルの音楽からの金管楽器の活用を聴き、知識の拡充を図る。
第5回	金管楽器(5回目：古井) ～まとめ～ 各4回にわたって学んだ金管楽器の知識をもとに選んだ楽器で、基本奏法を軸に試験を行う。 その後、初歩的な合奏(アンサンブル)にも挑戦してみる。
第6回	木管楽器(1回目：桜井) 楽器の組み立て方、リードの取り付け方、アンプシュアの形、構え方等、音出しの準備と方法を学ぶ。
第7回	木管楽器(2回目：桜井) サクソフォーン奏者のためのABCより、No.1～29(基礎の中,低音域の安定)
第8回	木管楽器(3回目：桜井) サクソフォーン奏者のためのABCより、No.30～32(オクターブキイの操作) No.33～36(高音域への拡大)

第9回	木管楽器(4回目：桜井) サクソフーン奏者のためのABCより、No.36~37(タンギングのマスター)
第10回	木管楽器(5回目：桜井) サクソフーン奏者のためのABCより、 No.42.43.44(試験課題曲)
第11回	打楽器(1回目：稲垣) スネアドラムのつくり、基礎奏法 ティンパニのつくり、基礎奏法
第12回	打楽器(2回目：稲垣) スネアドラムの基礎奏法 ティンパニの応用奏法
第13回	打楽器(3回目：稲垣) スネアドラムの応用奏法 大太鼓、シンバルのつくり、基礎奏法
第14回	打楽器(4回目：稲垣) スネアドラムの応用奏法 鍵盤打楽器(マリンバ、シロフォン、ヴィブラフォン、グロッケン、チャイム)のつくり、基礎奏法
第15回	打楽器(5回目：稲垣) スネアドラムを用いた小テスト 鍵盤打楽器の応用奏法

事前学修		金管楽器:①～④各々の回で学ぶ楽器の初歩の知識(形状・名称など)は学んでおく。④試験で演奏する楽器を考えておく。⑤選択した楽器を練習する。 木管楽器:毎回のレッスン反復練習と次回のレッスン内容の予習。 打楽器:授業で使用する楽器の準備、できれば楽器とそれに使用するバチの組み合わせを調べておく。
事後学修		金管楽器:①～③次回までに学ぶ楽器の初歩の知識を学んでおく。③試験で演奏する楽器を考えておく。④選んだ楽器を練習する。⑤次回から始まる楽器の予習をしておく。 木管楽器:レッスン内容の確認と確実性を高めるトレーニングをする。 打楽器:座学的に説明した内容のまとめ、実習的に取り組んだ内容の反復練習。
フィードバックの方法	授業時間内において適時説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価		50%	実技:基本奏法における音色、表現等、まとめられて演奏できているか。
上記以外の試験・平常点評価		50%	取り組みに対する努力が見受けられたか、指摘された問題点を改善できたか。
定期試験		0%	行わない。
補足事項	全楽器共通 実際に楽器を使用するため、準備、片付け等、楽器の扱いに注意する。 金管楽器・打楽器の教材(資料)は、各授業内にて配布する。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
サクソフーン奏者のためのABC	ブラティー	ビヨドー出版社	9790043028567	なし
参考資料	特になし			

科目名	器楽演奏Ⅰ			担当教員	稲垣 佑馬	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験	依頼演奏、リサイタル等演奏活動、音楽系部活動・課外活動外部指導者並びに外部講師(合奏トレーナーなど)					
実務経験を生かした授業内容	演奏活動、音楽系部活動・課外活動外部指導者の経験を活かし、各楽器ごとに異なる知識の総合的な活用法(指導法・メンテナンス等)についてレッスンする。					
到達目標及びテーマ	器楽演奏Ⅰでは、多種多様な楽器のなかで、木管楽器・金管楽器・打楽器の知識を、実際に楽器に触れ、体験することで初歩的な知識・活用法を得る土台とする。 それらの知識から、のちに(初心者・経験者共に)専門的な知識を(新たに・改めて)養い得ることによって、教育現場で活用する初歩とすることで、指導力、美しい音色で演奏する、そして子どもたちと音楽を共有し、共に学ぶ力を養う。					
授業の概要	履習学生を3グループに分け、それぞれのグループごとに、各5回ずつ、木管・金管・打楽器と学ぶ、オムニバス形式での講義となる。 木管楽器・金管楽器であれば、楽器の組み立てから、マウスピースでの音の出しかた、運指等の基礎知識、奏法を学ぶ。 打楽器は多岐にわたる楽器に技術が応用できるスネアドラムを中心に奏法・知識を学び、また使用頻度の高いその他の楽器も経験する。 試験に関しては、各楽器5回目に、教員より指示された内容で簡易的な試験を行う。 それに伴い、定期試験(16回目)は行わない。 【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	金管楽器(1回目：古井) ～金管楽器の音出しの初歩～その① 金管楽器全てに共通する各種マウスピースで音を出し、可能であれば、実際に楽器を付けて音を出してみる。 それらをもとに、5回目で行なう試験において演奏する楽器を選ぶ(4回目までに決定)。 基礎知識編として、トランペットを学ぶ。
第2回	金管楽器(2回目：古井) ～金管楽器の音出しの初歩～その② 1回目に引き続き、5回目で行う試験で演奏する楽器を選ぶための各楽器の試奏。 基礎知識編として、ホルン・トロンボーンを学ぶ。
第3回	金管楽器(3回目：古井) ～金管楽器の音出しの初歩～その③ 1回目、2回目に引き続き、5回目で行う試験で演奏する楽器を選ぶための各楽器の試奏。 基礎知識編として、(トロンボーン)・ユーフォニアム・チューバを学ぶ。
第4回	金管楽器(4回目：古井) ～金管楽器の音出しの初歩～その④ 1回目～3回目に引き続き、5回目で行う試験で演奏する楽器を決定する。 基礎知識編として、(ユーフォニアム・チューバ)を学ぶ。 更に可能なら、基礎知識編として、様々なジャンルの音楽からの金管楽器の活用を聴き、知識の拡充を図る。
第5回	金管楽器(5回目：古井) ～まとめ～ 各4回にわたって学んだ金管楽器の知識をもとに選んだ楽器で、基本奏法を軸に試験を行う。 その後、初歩的な合奏(アンサンブル)にも挑戦してみる。
第6回	木管楽器(1回目：桜井) 楽器の組み立て方、リードの取り付け方、アンプシュアの形、構え方等、音出しの準備と方法を学ぶ。
第7回	木管楽器(2回目：桜井) サクソフォーン奏者のためのABCより、No.1～29(基礎の中,低音域の安定)
第8回	木管楽器(3回目：桜井) サクソフォーン奏者のためのABCより、No.30～32(オクターブキイの操作) No.33～36(高音域への拡大)

第9回	木管楽器(4回目：桜井) サクソフーン奏者のためのABCより、No.36~37(タンギングのマスター)
第10回	木管楽器(5回目：桜井) サクソフーン奏者のためのABCより、 No.42.43.44(試験課題曲)
第11回	打楽器(1回目：稲垣) スネアドラムのつくり、基礎奏法 ティンパニのつくり、基礎奏法
第12回	打楽器(2回目：稲垣) スネアドラムの基礎奏法 ティンパニの応用奏法
第13回	打楽器(3回目：稲垣) スネアドラムの応用奏法 大太鼓、シンバルのつくり、基礎奏法
第14回	打楽器(4回目：稲垣) スネアドラムの応用奏法 鍵盤打楽器(マリンバ、シロフォン、ヴィブラフォン、グロッケン、チャイム)のつくり、基礎奏法
第15回	打楽器(5回目：稲垣) スネアドラムを用いた小テスト 鍵盤打楽器の応用奏法

事前学修		金管楽器:①～④各々の回で学ぶ楽器の初歩の知識(形状・名称など)は学んでおく。④試験で演奏する楽器を考えておく。⑤選択した楽器を練習する。 木管楽器:毎回のレッスン反復練習と次回のレッスン内容の予習。 打楽器:授業で使用する楽器の準備、できれば楽器とそれに使用するバチの組み合わせを調べておく。
事後学修		金管楽器:①～③次回までに学ぶ楽器の初歩の知識を学んでおく。③試験で演奏する楽器を考えておく。④選んだ楽器を練習する。⑤次回から始まる楽器の予習をしておく。 木管楽器:レッスン内容の確認と確実性を高めるトレーニングをする。 打楽器:座学的に説明した内容のまとめ、実習的に取り組んだ内容の反復練習。
フィードバックの方法	授業時間内において適時説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価		50%	実技:基本奏法における音色、表現等、まとめられて演奏できているか。
上記以外の試験・平常点評価		50%	取り組みに対する努力が見受けられたか、指摘された問題点を改善できたか。
定期試験		0%	行わない。
補足事項	全楽器共通 実際に楽器を使用するため、準備、片付け等、楽器の扱いに注意する。 金管楽器・打楽器の教材(資料)は、各授業内にて配布する。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
サクソフーン奏者のためのABC	ブラティー	ビヨドー出版社	9790043028567	なし
参考資料	特になし			